

聖書日課 『からし種』 2022.7.10-7.17

<p>7月10日 (日)</p> <p>黙示録 8章</p>	<p>「小羊が第七の封印を開いた時、天は半時間ほど沈黙に包まれた。そして、わたしは七人の天使が神の御前に立っているのをみた。彼らには 7 つのラッパが与えられた」(1~2節)。天使のラッパの音は、さまざまな出来事を思いおこさせる。私たちの生活の中にも、神の業を思い起こすような出来事が溢れているのだろう。</p>
<p>11日 (月)</p> <p>黙示録 9章</p>	<p>「この人々は、その期間、死にたいと思っても死ぬことができず、切に死を望んでも、死の方が逃げて行く」(6節)。神は全ての時をわかっておられる。しかし、人間の私たちは、主の時を事前に知ることはできない。それと同じように、命の時も、神だけがご存知。その時がいつ来るのか、わからない中で、神と共に生きる道が備えられているのだろう。</p>
<p>12日 (火)</p> <p>黙示録 10章</p>	<p>「わたしは、その小さな巻物を天使の手から受け取って、食べてしまった。それは、口には蜜のように甘かったが、食べると、わたしの腹は苦くなった」(10節)。神の言葉は、口には甘いかもしれないが、お腹の中に入ったら、苦くなってしまふと語られる。消化しやすい神の言葉は、甘いままかもしれないが、それだけでない神の言葉も頂きながら、歩みたい</p>
<p>13日 (水)</p> <p>黙示録 11章</p>	<p>「この世の国は、我らの主と、そのメシアのものとなった。主は限りなく統治される」(15節)。十字架で殺された主を、メシア(救い主)と告白し、その方が私たちの世界を統治してくださっていると言う希望は、なんと大きなことか。その方は、「今おられ、かつておられた方」(17節)。その方が私たちと共におられることに感謝します。</p>

メール配信登録メール senfkorn.obc@gmail.com

大井バプテスト教会

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課 『からし種』 2022.7.10-7.17

<p>14日 (木)</p> <p>黙示録 12章</p>	<p>「竜は子を産もうとしている女の前に立ちはだかり、産んだら、その子を食べてしまおうとしていた」(4節)。キリストを主と告白して生きることが迫害の対象となった時代、幼い子どもたちが生まれてくることも生きることも大変なときだったのだろう。この地に生まれた命、全てを命の主は守ってくださり、大切に育ててくださっているのだろう。</p>
<p>15日 (金)</p> <p>黙示録 13章</p>	<p>「耳ある者は、聞け。捕らわれるべき者は、捕らわれて行く。剣で殺されるべき者は、剣で殺される。ここに、聖なる者たちの忍耐と信仰が必要である」(9-10節)。主はその正しきで裁きを、必ず裁きの時を用意されている。捕らえられる者。殺される者。しかし、聖なる者とされる人たちは、忍耐強く主に従って生きることは、神と繋がって生きることなのだろう。</p>
<p>16日 (土)</p> <p>黙示録 14章</p>	<p>「また、わたしは天からこう告げる声を聞いた。「書き記せ。『今から後、主に結ばれて死ぬ人は幸いである』と。」「霊」も言う。「然り。彼らは労苦を解かれて、安らぎを得る。その行いが報われるからである」(13節)。主に従って生きるとしても、悩みや問題は必ずある。けれども、困難な中にも安心や励ましが備えられている。</p>
<p>17日 (日)</p> <p>黙示録 15章</p>	<p>「七人の天使が最後の七つの災いを携えていた。これらの災いで、神の怒りがその極みに達するのである」(1節)。黙示録が語る「神の怒り」のすさまじさに、心が押しつぶされそうになる。今の私たちの世界をご覧になって、神がどれだけ痛みと悲しみと憤りを覚えておられるか。それでもこの世界を救うために「屠られるべき小羊」を送られた神の祈りを覚えたい。</p>